

世界を知る

## T・K 生こと池明観氏と AALA

理事長 河内 研 一

元・韓国翰林大学日本学研究所長の池明観（チミョングアン）氏が今年元日に97歳で亡くなられた。氏は1972年維新体制という朴正熙独裁下の韓国を逃れ半ば亡命の形で来日し、1993年まで20年を超える歳月を日本で過ごされた。その間東京女子大学等で長らく教鞭を執られた。帰国後は金大中政権において韓日文化交流政策諮問委員会委員長として日韓の文化交流に多大な貢献をされた。アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、取り分け埼玉 AALA は小笠原政之助理事長を通じて氏と深い繋がりを持つことができた。

埼玉 AALA は2000年5月17日に埼玉会館大ホールを満席にして「韓国民族伝統芸能埼玉公演」を成功させた。これを皮切りにして11都府県で総計10800人が鑑賞するという全国公演も成功裡に終了した。これを準備したのが日本 AALA の副理事長でもあった小笠原政之助であり、韓国側の窓口が池氏であった。小笠原は何度も訪韓し、池氏も2月18日には日本 AALA の事務所を訪れてくれている。またこの年11月にはソウルにて池氏を委員長とする韓日文化交流政策諮問委員会主催でシンポジウム『「過去清算」と21世紀の日韓関係』が開かれ、日本 AALA は創立45周年を記念したツアーを組んでこれに臨んだ。日本 AALA 副理事長の小笠原をはじめ埼玉からは柴田広子常任理事（現・副理事長）ら都合7名が参加し、池氏の歓待を受けた。翌年作成の埼玉 AALA の紹介リーフレット（2001年版）には AALA の友人たちとして、小笠原と並ぶ池氏の写真が掲載された。



1973年8月8日、金大中が東京の

ホテルから KCIA によって拉致されるという国際的大事件が発生した。その日発売の月刊誌『世界』（9月号）には、たまたま金大中のインタビューが掲載されていた。『世界』ではこの年の5月号から T・K 生という匿名のルポルタージュ「韓国からの通信」の掲載が始まっていた。朴大統領射殺事件（1979）、光州事件（1980）、ラングーン爆破事件（1983）、大韓航空機撃墜事件（1983）、大韓航空機爆破事件（1987）等々、朝鮮半島をめぐる大事件は続いたが、この T・K 生による地下通信は、軍政の苛酷な弾圧下で民主主義を求めて抵抗する民衆の、学生の、宗教者の、作家やジャーナリストの、労働者の、そして学者たちの声を紡ぎ世界に伝えた。貪るように読んでいた読者の一人であった私が定期購読者になったのは光州事件を契機としてであった。以後 30 数年、『世界』は我が書庫を埋め続けている。1988 年 3 月号まで続いた「通信」。KCIA は血眼になって匿名筆者を捜したが見つからず、日本人説もまことしやかに流れていた。



2003 年『世界』9月号で池明観氏は岡本厚編集長との対談のなかで、自分が T・K 生であったことを遂に明かした。あの池氏が T・K 生であったとは。2005 年の改定版リーフレットでは感慨と誇りに浸りながら小笠原理事長と並んで写る池明観氏を再録したのだった。心から氏のご冥福を祈ります。